

テーマ「高校入試」

日時：9月25日（日）

場所：栄オアシス校

対象：今後の高校受験生とその保護者

◆講演1 / 講師 山中 ■■■

思考力や表現力、判断力を求める入試へ 時間、配点の変更され、推薦入試も変化

2020年度から大学入試が変わるのに伴い、公立高校の入試も変わっていきます。方向性としては、大学入試と同じように思考力や表現力、判断力が求められるようになります。特に注意したいのは判断力。それを測るのはまず資料の読み取りで、文章の読解、グラフやデータから特徴を読み取り、その中から有意な情報をとらえ、分析しなければなりません。

試験の主な変更点は、まず時間が現行の40分から5分延びます。配点は現行の1教科20問から各2問増えて22点満点になり、総合で10点増えます。推薦も変わります。現在は2月終わりに推薦の申し込みをし、不合格だった場合は一般入試でどこを受けるか選べますが、新しい入試では推薦入試と一般入試がまとめて行われるため、受験機会はAグループ、Bグループ各1回です。推薦を希望される方も、たとえばAグループは推薦で、Bグループは一般で受けるという形になります。今まで学力評価は内申書だけだった推薦入試ですが、一般入試の人と一緒に学力試験も受けます。つまり、スポーツなどで実績を作っている人も勉強が必要になるのです。

一筋縄では行かない、3つの力を問う問題

増えるのは思考力、表現力、判断力を問うような問題。それをプラスの5分、1問あたり2分30秒で解いてくださいということです。

教育委員会が出しているサンプル問題があります。まず国語。「これまでの問題に比べ、より思考力、表現力、判断力を測ることを狙いに、文を推敲するために必要な要素を把握する問題などを出題する予定」とあります。また、「文章の構成、論理の展開をする問題も今まで通り出題します」。そして、「文章中の言葉について述べた文の不適切な部分を把握させることにより、読む能力および書く能力を見ます」。そのうえで「次の文章を読んで後の問いに答えなさい」。

以前の入試問題の一部分で、河合隼雄さんの文章です。「ある生徒が創造的退行についてまとめたものがあるが、内容や表現に不適切な部分がある。それらを最も的確に指摘しているものをA群およびB群からそれぞれ選んで、その仮名符号を書きなさい」。両方正解で得点になります。

他、数学では証明の問題を「解きなさい」ではなく「不自然な流れを説明しなさい」という問題。社会も参考書に書いてあることだけで勉強していると、解けないと思います。「選択肢5つから該当するものを全て選ぶ」とあります。理科は、今もそうですが非常に問題文が長く、実験、図、データから、全体を読み取り、判断する力が必要です。

英語も大きく変わります。特に筆記。比較用の27年度の英作文の問題は一見、自由記述のようで、実際の答は1つか2つに絞られます。対して新しい入試での問題はこうです。「スマートフォンの販売を禁止するべきだという意見に対して、あなたは賛成ですか、反対ですか。立場を決めたいうで、英語2文以上で書きなさい。ただし最初の英文はI thinkで書き始めること」。出だしは指定されていますが、後は自由記述です。

ただし参考の単語があげてあり、ここからどういう答が期待されているかを読み取る必要があります。自由に書いた場合、本当に正しい英文ならマルになりますが、冠詞や前置詞が間違っても減点の可能性があり、正解に近づくためにはあげられた単語を使うべきでしょう。それぞれの単語が賛成の場合に使うものなのか、反対の場合に使うものなのかも読み取れます。たとえばhealthは反対する場合。informationは賛成する場合。まあ、逆でも使えますが。そういったことも読み取らなくてはならない、大学入試にかなり近い内容です。

採点する先生も大変ですが、匙加減は学校の判断によるため、採点基準は各校で大きく違ってくるはずです。

難問投入で偏差値幅が拡大

当日の“逆転”が増える

公立入試に合わせ、県模試の配点も各教科100点満点、合計500点満点から550点満点に変わりました。その分布表を見ると、今までなかったような偏差値が出てきています。トップは偏差値79.1。今までトップの偏差値は74か75ぐらいでしたが、50点分難しい問題を入れたことで幅がさらに広がったと言えます。

公立入試は内申点と当日点があります。新しい入試では、内申点は変わりませんが、当日点が増え、その合否に占める割合は今までの62%から66%になります。3分の2は当日点で決まるのです。微増といえばそうですが、当日の逆転が今までより増えるということです。内申点が重要なのは変わりませんが、内申点があるから大丈夫とは思ってはいけません。内申点をしっかり取ったうえで、当日点も取って、合格していただきたいと思えます。

◆講演2 / 責任者 森浩晃

自分と相手を知って、戦略を立てる

高校入試の先の、人生の目的を持つ

一所懸命に勉強したからといって、合格できるわけではありません。合否を決めるのは学校です。好きな勉強だけやっても合格できないことを、まず肝に銘じてください。

相手を知る。そして自分を知る。自分の長所、短所、性格的なものや科目の偏りを、しっかり認識する。今までの県模試や実力テストを参考にし、過去問などを解いてみて、あと何点、どの科目で増やしていかなければいけないかを知ることです。

その打ち立てた具体的目標を与えられた時間でどう達成していくか。点数、偏差値、集中時間を長くするなど、一人ひとりで目標は異なり、一斉授業でできるものではありませんが、当塾の先生はその子の何が強くて弱いかを知っているから、的確なアドバイスができます。

また、合格点に足りている人は上位何%、あるいはトップ合格を目指す。そこまでいけば、落ちることはありません。これなら合格できるという基準をラインにし、そこに行けるよう内申点や実力を上げていく。次のステップで上位何%に入る。あらゆる試験で有効です。当塾の元生徒は司法試験でトップを目指し、一桁台で合格。希望していた法律事務所働いています。

そして、高校入試のさらに先の、人生の目的を持つこと。将来どうなりたいか、自分の一生をどうしたいか、高い志を持つ。高校も大学もそれ自体を目的にすると、合格時点で見失ってしまう人がいます。たとえ医学部に合格しても医師としてのビジョンがなければ、ふらふらしてしまいます。高校入試が人生の目的のためのひとつの目標になれば、たとえどんな結果になろうとも、すぐ次の一歩が踏み出せます。

受験は将来につながる訓練

だから必要不可欠なもの

勉強の深さは英文の読み方でもわかります。意味がわかって読んでいる人は意味の区切りで間を置く。そうでないと理解してもらえません。また、日本語に直しては、英語は上達しません。日本語のようにイメージで理解する。それぐらいまで深い勉強をしてこそ、合格点が取れます。浅い勉強にならないように。

ひたすら時間を費やせば合格できると勘違いしないように。勉強していなさそうなのに成績がいい人がいますが、彼らは時間の使い方が上手い、勉強のポイントをずらさない。解答欄を埋めるのを勉強と思っていたら、合格はやってきません。勉強しているのに成績

が伸びないというご相談は、実際多いです。先日面談のあったお子さんは、課題でいい点を取ることにエネルギーをさいて、肝心の基礎学力がついていない。これでは成功しません。基本の力をしっかりつけておけば、世界中どこに行っても通用します。

その訓練を今、勉強を通してやっていると思ってください。だから受験というのは必要不可欠なものなのです。受験がなかったらこれほどの努力はしません。自分に厳しくなれません。あるお父さんが警察学校の教官で、警察学校を卒業できるのは6割だと言います。幸子先生が「卒業できない4割はどんな人ですか?」と聞いたら、「中高一貫出身です」と言っていました。なるほどと思いました。

ポイントがずれて勉強しているケースは結構あります。先生のアドバイスで否定されるような気持ちになるかもしれませんが、そこは素直に受け入れ、変えていく必要があります。深い学習をして学力を高め、希望の高校に入り、社会に出てからどういう人生を歩むか。そこまで考えて受験勉強をしてください。

◆講演3 / 責任者 森幸子

出題者の意図を深く読み取る力

問題の中の気づきまで自分のものに

以前、名市大の入試で、英文で先の例題と同じような、コンビニエンスストアについての考えを書きなさいという問題が出ました。やっぱり深く知っていないと書けないです。「コンビニエンスストアは24時間開いていて便利である」の一点張りです。じゃあ、反対から見た時はどうなの?たとえば健康問題とかは?

今日の山中先生の解説はものすごく重要です。そこにあげられた単語が意図する所を読み取らず、自分の考え方だけで書くと、先生たちはバツをつけたくなります。どういう答えが求められているのかを見抜く力、そのうえで反論する、論発する力が必要です。ただなんとなくその単語を使って書いても、深い文章は書けない。ものすごく重要なヒントです。

国語の問題はどうでしょう。不適切な部分を指摘している文を選ぶ、そこだけで終わっていませんか?自分はそういう文章を書いていないでしょうか。これは問題文ですが、そんな文章を書きがちだから出てくるのです。私が以前勤めていた出版社では数学の問題集を作っていましたが、問題を作る時、できるだけ気づきを与えていくような出題をしていました。この問題も、出題者から気づきを与えているのです。悪い例が書いてある。自分の文章がもしそうなっていたら、正していく。そこまでやってこそ本当の勉強です。解説を読んで、わかった、終わりではなく、正しくするにはどうしたらいいのかという読み方

をする。それができると、大学生になっても大人になっても、深い勉強ができます。

だから、入試は大切なのです。高校生以上になって過去問を解く時、特に国語は倍の時間をかけて解説を読みこなささいと言います。それができる子はどんどん上がってきます。できないと、ああそうか、の所で留まったままです。森先生の言葉にもあったように、勉強時間を増やしたからと言って実力は上がっていきません。それは自己満足。成績を上げよう、世の中に役立つ人間になろうと思ったら、見抜いていかなければいけないのです。

未来ビジョンから逆算する高校受験

それを乗り越えるスケジュール実践を

自分を高めることはものすごく大事。すると問題の解き方にも差が出てきます。出題の中にもヒントを見つけることができます。これを皆さんが身に付けてくれた時、高校受験もその後も成功するでしょう。

高校受験を考える時、多くの方が次の大学や大人になってからのことを考えていません。が、大まかでもいいので、まずそれを決める。そのためにどの大学に行くべきかを3つくらいは考える。そして、その大学に行くためにベストな高校はどこかを考える。逆算して考える。そして、自分のどこが弱いのか、点数を何点上げるのか、それらのスケジュールを自分でできるようにする。その実践がなければ、高校に行っても学力はついていきません。